

## 牛ウイルス性下痢・粘膜病（BVD-MD）について

### 牛ウイルス性下痢・粘膜病とは？

- 牛ウイルス性下痢・粘膜病（BVD-MD）は届出伝染病で、毎年全国で100～200頭の発生報告があり、本県では平成20年以降2頭の発生を報告しています。
- 発熱、呼吸器・消化器症状、乳量低下、発育不良など様々な症状を起こします。また、妊娠牛が感染すると、胎齢によって流産や奇形子牛、持続感染牛（PI牛）が産まれてくる場合があります。

胎齢100日前後で感染すると、PI牛が産まれることがあります。PI牛は一見正常に発育することも多く、見た目では判断することは困難です。生涯、糞便や尿、鼻汁などの中にウイルスを大量に排出して農場内にウイルスをまき散らし続けます。



### 対策

- ウイルスの持ち込みを防ぐ！  
導入牛の隔離・観察。  
導入牛の産子にも注意が必要です。（産子がPI牛の可能性あります。）
- ウイルスをばらまくPI牛の早期発見・早期淘汰！  
感染源となるPI牛に対する治療法はありません。
- ワクチンで予防！  
ワクチンには生ワクチンと不活化ワクチンの2種類あります。  
農場により浸潤状況が異なるので、獣医師や家畜保健衛生所と相談して使用して下さい。

生ワクチン  
妊娠牛への接種は禁忌  
1回の接種で長期間効果有り

不活化ワクチン  
妊娠に関係なく使用可能  
2回接種が必要な場合があります

流産の多発、子牛の発育不良などBVD-MDを疑ったら  
獣医師や家畜保健衛生所に相談を！



神奈川県湘南家畜保健衛生所

〒259-1215 平塚市寺田縄 345

TEL : 0463-58-0152 FAX : 0463-58-5679